

3月になりました。3年生は、先日県公立高校の入試が終わりました。卒業に向けて、残りの中学校生活を大切に過ごしてください。1、2年生には、それぞれ進級に向けての準備の一ヶ月になります。今年度一年間のまとめと振り返りをしっかりとして欲しいです。

さて、今日は2つお話しします。

1つ目は、「初心忘るべからず」というお話です。

先日、東京に行く機会がありました。本来の目的は別にあったのですが、少し時間に余裕があったので、立ち寄ってみた場所があります。それは、今から30年近く前、私が初めて教員として働いた学校の跡地です。その学校は、現在は都心から離れて、東京郊外に移転しています。当時の校舎は取り壊されて、新しい建物は、系列の大学の研究所に変わっていました。一階のフロアには、コーヒESHOPPが入っていて誰でも入れるようになっていたので、中にちょっと入ってみました。その後、建物の周りを一周すると、当時よくお弁当を買っていたお店があったので、懐かしくなり、おにぎりを一つ買いました。滞在したのは、ほんの短い時間でしたが、いろいろなことが頭をよぎりました。どうしたらわかりやすい授業ができるか、一生懸命に考えたこと。失敗をしてしまい、先輩の先生に結構厳しく指導されたこと。いろいろなことがありましたが、「この仕事を一生の仕事にしよう」と決意をしたのがこの場所だったことを思い出しました。

「初心忘るべからず」という言葉ですが、一般的には、「何事においても、始めた頃の謙虚で真剣な気持ちを持ち続けていかねばならない」という意味で使います。しかし、調べてみると、これには続きがあって、もっと広い意味があるようです。この言葉は、室町時代に能楽を大成した世阿彌という人の「花鏡」という書物の中にある言葉です。続きには、3つの「初心」が取り上げられています。「是非の初心忘るべからず 時々の初心忘るべからず 老後の初心忘るべからず」最初の「是非の初心忘るべからず」これは、皆さんが思っているとおり、「判断基準となる、始めた頃の未熟だったことを忘れてはならない」ということです。次の「時々の初心忘るべからず」というのは、「その段階、段階においては、初めてのことがあり、つたない未熟なこともあるのだからそれを忘れてはならない」ということ。そして、「老後の初心忘るべからず」は「老年期になっても、初めてのことはあり、年をとったからもういいとか、完成したということはない」という意味です。

このことを皆さんに置き換えて考えてみます。1年生は1年生の段階で、2年生は2年生の段階で、3年生は3年生の段階での「初心」があります。それぞれ

の段階での未熟なこと、上手くいかなかったことを忘れず、さらなる向上を目指しましょう。ということになるでしょうか。私自身も、まだ老年期とは思っていませんが、「老後の初心忘るべからず」で、さらなる向上を目指したいと思いません。

2つ目は、あいさつの話です。職員玄関を入ったところに、大きな文字で、「あいさつは 小さな習慣 大きな礼儀」という標語が掲げてあります。気にして見たことがないという人は、ぜひ立ち止まって見てください。「あいさつ」は、漢字で書くと「挨拶」です。「挨」には、互いに近づく、という意味があり、「拶」には、相手に迫る、という意味があります。人と人が、互いに相手の存在を認め、相手に対して心を開くこととして、「挨拶」というようになったそうです。

先日、生徒会の呼びかけにより、あいさつ運動が行われました。校長室前を通る3年生が、すぐにそれに反応して、いつもよりも元気なあいさつの声が廊下から聞こえてきて、とてもうれしく思いました。

ただ、大事なのは、このあとなのではないかと思います。この取り組みを一時的なものに終わらせたくはありません。生徒会の取り組みとして、クラス対抗のような形をとったのは生徒会が考えてくれたきっかけにすぎません。

朝、登校した時、授業の始めと終わり、廊下で先生や保護者、来校者の方と会ったとき、気持ちのよいあいさつができているかどうか、ぜひ一人一人が振り返って欲しいです。気持ちのよいあいさつが響く大石南中にしていきましょう。

校長 大澤 聡